

③ 了義寺と杉の板戸絵



下山田の飛瀧山了義寺は、臨済宗建長寺派の寺院です。当寺は寺に残る古文書の写本や、『新編相模国風土記稿』を総合すると貞治6（1367）年8月足柄地頭和田宗時が足柄の山端荘（今の太井町山田字芭蕉）にあった真言宗無量義院を禅寺に改め、古先印元禅師（建長寺38世住職）を鎌倉長寿寺から招いて開山とした寺です。



地藏菩薩

現在の本堂は、天明6（1786）年、19世芝山禅師の時、下山田の富豪で、小田原藩の御用商人であった曾根物右衛門の寄進により、再建し、このとき建てた本堂は総檜づくりで、現在もなおその威容を示しています。また、本尊の地藏菩薩は、専門的な調査によると室町時代初期の優れた作品で、もともと建長寺に伝来したという伝えに見合った像であるとの報告がなされています。



杉の板戸絵

了義寺の杉の板戸絵は、雪舟派の流れをくむ才女桜井雪保が40歳のときに描いた作品といわれています。

杉戸大小12枚に山水、龍、竹林、虎、梅、道釈人物が大変たくましい筆づかいで描かれており、町の重要文化財に指定されています。

龍図、虎図には寛政6（1794）年の作と記されており、了義寺本堂再建のとき、芝山禅師の請いを受けて寺に泊まり込み、板戸に描いたといわれています。



町指定重要文化財 杉の板戸絵
昭和46年6月8日指定



弁天社

了義寺境内の東には、弁天社があります。『新編相模国風土記稿』には、「了義寺弁天社の御神体は弘法大師が護摩の灰をもって造りしものという。背に手形あり、五本の指には天長7年（830年）7月7日江の島弁財天において秘密の護摩一萬座修行奉り、其の灰をもって此の像を形作るものである。空海と記してある」とあります。江の島弁財天と関係が深く、願いが叶うとして昔から信仰されてきました。



弁天社